

琉球大学学術リポジトリ

慢性B型肝炎の治療に対する醗酵ウコンの有用性について

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 与那覇, 恵, 藤野, 哲也, 稲福, 直, 稲福, 盛雄, 野村, 喜重郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002016707

慢性 B 型肝炎の治療に対する醗酵ウコンの有用性について

○与那覇 恵、藤野 哲也、稲福 直、稲福 盛雄、野村 喜重郎*
株式会社琉球バイオリソース開発、*野村消化器内科

熱帯アジアを原産地とするショウガ科のクルクマ属に分類されるウコン(*Curcuma longa* L.)は、沖縄では琉球王朝時代より主に肝臓に対する民間薬として利用されてきた。また、ウコンはカレー粉に含まれるターメリックとして、日本人にひろく利用されており、利胆薬として肝炎、胆道炎、胆石症などに用いられるほか、芳香性健胃薬としても利用されてきた。しかしながら、ウコンには独特の苦味があることから食材として日常的な利用は制限があった。そこで、我々は、ウコンを乳酸菌群にて発酵させることにより、嗜好性の改善、抗酸化活性の増加、ミネラル分の増加を図った醗酵ウコンの開発に成功し、日常的な利用が容易となった。

現在、日本における B 型慢性肝炎の患者数は約 120 万人から 150 万人とされ、そのほとんどは出産時の母から子への垂直感染により罹患したものと推察される。その予防法として B 型肝炎ウイルスキャリアである母親への B 型肝炎ウイルスワクチンの投与、ならびに新生児への抗 HBs ヒト免疫グロブリン(HBIG)の投与が実施されているが、慢性化する患者数は増加する一方である。また、ワクチン等の薬物投与は副作用が強く、患者への負担は大きい。

そこで、我々は、野村消化器内科に通院する14名のB型慢性肝炎の罹患者に対し(男性11名、女性3名、平均年齢52.3才)、薬物投与と同時に代替補完療法として醗酵ウコン粒の同時投与(投与量200mg/粒、20錠/日、平均投与期間7.7ヶ月)を行い、醗酵ウコンの有用性、有効性を測定した(GPT、HBV-DNAポリメラーゼ、HBe抗体、自覚症状)。その結果、醗酵ウコンの同時投与は、B型慢性肝炎に対し、60%強の有用性、有効性を示し、副作用については被験者全員に対し、認められなかった。